

衡農建第 1415 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

宮城県大衡村長 跡 部 昌 洋



今後の道路行政についての意見・提案について

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号により通知のありましたこのことについては別紙により提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案等

宮城県大衡村

組織の見直しと支出の無駄の徹底是正は勿論であるが、来年度からの一般財源化に伴ない道路特定財源制度が適用除外となるとの基本方針が決定されているが、ならば本来の税率に戻すのが筋と考えるのが一般的であると思います。

しかしながら道路整備のための財源が大幅に不足しますと、今でさえ遅れている地方の幹線道路整備は勿論、生活の基盤である地方の道路整備の遅れは明白であり、地方としては到底是認することはできないところで、真に必要な道路の位置付けと共に、計画的に引き続き重点整備が講じられるよう切望するものであります。

暫定税率の失効期間中の地方の減収については、各地方団体の財政運営に支障ないよう国が適切な財源措置を講じると閣議決定されているようですが、地方にとっては中長期計画の下、国県道の幹線道路整備に合わせ年次計画を策定しており、幹線道路整備が進まなければ大幅な計画の見直しが余儀なくされ、強いては本村はもとより、宮城県と一体となり進めている地域活性の重要な役割である「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律」に基づく「地域戦略プラン」構想への影響は図り知れないものがあります。

②－１地域の現状と抱える課題

宮城県大衡村

○現状

仙台都市圏域北部にある本村は、仙台北部中核テクノポリスを引継ぐ「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律」に基づく「高度技術産学連携地域」に指定され、製造品出荷額は676億円（平成17年12月末）と県内で上位に位置しており、県内の広域的な雇用の場、並びに東北一円の物流拠点として地域経済の活性化に重要な役割を担っております。

又、同団地内にはセントラル自動車（株）が平成22年度中からの操業開始に向け今年中から社屋建設が着手予定され、さらには関連企業等の進出も予想され富県宮城、県内総生産10兆円への挑戦へ大きな弾みとなっております。

このように本村は、仙台北部地域から波及する経済活動の起点として、工業団地をはじめとする産業基盤の整備が着実に進展しており、今後一層の産業振興と工業団地に隣接する住宅団地の開発造成等「地域戦略プラン」の実現へ向けて、国道4号をはじめとし県道、村道など各路線の早期整備は本村発展のための最重要課題でもあります。

○課題

県内外の広範囲からの通勤者や製品、資材など搬出入車両から朝夕の交通量増加に伴ない、工業団地近隣の国道、県道などは慢性的に渋滞化しており、特に東北縦貫自動車道路において事故が発生した時や、或いは冬場に於ける事故未然防止からの閉鎖時は、国道4号は勿論、県道までが大渋滞となり、有事の際の緊急車両の通行にも影響を及ぼす事態になっております。

特に仙台市や大崎市方面からの通勤者が多く、昼夜人口比率で見ますと県内36市町村で第1位の132%（平成17年国勢調査）となっており、今後益々増加が予想されることから、当団地への幹線路である国道4号4車線化は喫緊の課題であります。

補助幹線として整備促進しております県道大衡落合線については、平成22年度中の全線4車線化に向け順調に促進を図って頂いており、取り敢えず平成20年12月には暫定2車線ながら供用開始の予定で現在鋭意工事進捗を図っております。

○自動車関連企業の進出に伴う交通網の整備充実

仙台北部中核テクノポリスを引継ぐ「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律」に基づく「高度技術産学連携地域」に指定されている仙台北部中核工業団地（ツインズヒルズ）には既に国内優良企業 47 社が操業開始し、更にはトヨタ自動車の生産子会社である「センทรัล自動車（株）」が、平成 22 年中の操業開始に向け今年中に社屋建設に着手する予定で、更には関連企業の進出も予想され、県内外への地域活性に大きな期待と希望を抱いております。

そのためにもこれら企業への通勤者、製品資材等の搬出入車両の円滑なる行程確保が喫緊の課題であり、取り分け国道 4 号 4 車線化が急務であることから、早期実現を目指すものであります。

合わせて企業の受け入れ充実を図りながら、住宅団地整備促進を図り、企業で働く方々の居住地確保にも努め、東北を代表する工業団地を中心とした街づくりを目指すものであります。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮城県大衡村

○ 重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
自動車関連企業進出に伴う交通網の強化と総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	東北の都、仙台市から宮城の北都、大崎市の区間で東北地方の大動脈国道４号が、４車線化の事業化がされてない区間は大衡村大衡地内の大衡中学校付近から大崎市三本木境までの約４.0km区間のみとなっております。 有事の際は勿論、仙台北部中核工業団地への通勤、製品、資材などの搬出入車両での交通渋滞解消のためにも、早期の事業化を望むものであります。 又、仙台北部中核工業団地、大衡松の平地内への東北縦貫自動車道路からの直結型インターチェンジ（（仮称）大衡ＩＣ）の新設事業が今年度より工事着手することから、計画通り平成２２年度中の供用開始に向け、事業の進捗に支障ないよう本村としても関係者へ種々協力をお願いしているところであります。	本村はもとより、宮城県が提唱する「富県宮城」の実現に向け、仙台北部中核工業団地への重要なアクセス路である国道４号４車線化は必要不可欠な事業であることは熟知の通りであり、渋滞が解消されると通勤範囲の拡大は勿論、「高度技術産学連携地域」としての仙台空港や仙台港など高速交通体系へのアクセスの充実も図られ、より一層地域経済活性の役割が果たされると共に、緊急時のスムーズな強化体制等の効果が期待され、又、（仮称）大衡ＩＣが供用開始されることにより前述のアクセス効果が尚一層高められるものと大いに期待しているものであります。	国道４号４車線化については、同建設促進期成同盟会を組織、毎年継続要望しているものであります。